



- 事前準備

- PAMの最大値発揮力を計測する

- 計測プロトコル

1. PAMに圧力 $P_{\text{PAM}} = 0$ を加え、自然長にする
2. 重さ m の重りが浮く長さの糸を用意する
3. レーザ変位計が読んだ距離 L を計測する
4. PAMに圧力 P_{PAM} を加え、漸増させる（その結果、可動壁がPAMに牽引され移動する）
5. レーザ変位計が読んだ距離 L' を計測する
6. 圧力 P_{PAM} におけるPAMの変位を、 $L - L'$ より算出し、記録する
7. PAMに加える圧力 P_{PAM} を大まかに（1 [V] ずつ？）昇圧し、再度3.-10.を実行する
8. 実際に使いたい区間もしくは非線形性が著しい区間がある場合、その区間に対してPAMに加える圧力 P_{PAM} を細かく（0.1 [V] ずつ？）昇圧し、再度3.-10.を実行する
9. 重りの重さ m を変更し、再度1.-8.を実行する
10. 同規格のPAMや別規格のPAMに対して、再度1.-12.を実行する